

協働事業評価・報告書

事業名	広域大規模災害に備えた平常時からの行政、社協、NP0 等の連携体制構築
団体名	災害復興くらし応援・みんなのネットワークかながわ
県協働部署名	神奈川県NP0協働推進課
事業期間	令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日

1 個別事業ごとの進捗状況

事業 1	情報共有会議の枠組みづくりと県内の多様な主体とのネットワーク形成事業
(1) 目標	・災害時の情報共有会議の枠組みや運営体制のあり方について県域の関係者間で協議される。情報共有会議の開催訓練の方法が検討され、協働で訓練が実施される。 ・県内市町村の行政や社会福祉協議会、地域の中間支援組織などにおいて、大規模災害発災後の連携の必要性が理解され、協力して被災者支援にあたる体制構築の動きが進む。 ・災害後の相互支援活動に参画意思のある様々な分野の市民活動団体や事業者を発掘し、平時からの情報共有体制をつくり、有事の際に連携できる関係を構築する。
(2) 実績 ※事業の実施によって生じた結果を、数値等により箇条書きで記入してください。 ※この欄に入りきらない場合は、別紙も可。	・当課と認定 NP0 法人鎌倉市市民活動センター運営会議が協働で開催した「企業・NP0・大学・市民のためのパートナーシップミーティング in 鎌倉」（2月10日開催）において、「「防災」で地域をつなぐ・地域とつながる」をテーマに設定し、地域をつなぐ連携・協力・場づくりの事例として団体の石田事務局長に登壇いただき、団体の取組について発表していただいた。当ミーティングは、企業6名、NP0等15名、大学2名、行政1名その他個人等4名の合計28名が参加した。 ・団体からパートナーシップミーティングに協力を得ることで、参加した企業や NP0、大学等の多様な主体が「防災」における地域連携の重要性について、平時からつながるきっかけを作ることができた。 ・団体から事例発表していただくことで、「防災」「災害支援」について、参加した企業や NP0、大学等の多様な主体が団体の取組を知り、知見を得ることができた。 ・当ミーティングの参加者は、「防災」「災害支援」に関心の高い企業や NP0、大学等であり、災害後の相互支援活動に参画意思のありそうな様々な分野の市民活動団体や事業者を発掘することに寄与した。また、ミーティング終了後のアンケートにより、当課の情報をメールで送付する了承を得た方へは、今後の団体の活動なども周知することが可能となった。 ・また、来年度以降も協働体制を継続し、平時からの情報共有体制をつくり、有事の際に連携できる関係を構築するため、団体、協働4部署、県社協等の協力団体と「規約」を締結した。
(3) 実績・成果に対する評価 ※実績や成果についてどのように考えているかを記入してください。	・この3年間、「防災」「災害連携」をテーマに、横須賀三浦、藤沢、鎌倉の各地域で「企業・NP0・大学パートナーシップミーティング」を開催し、団体に事例発表していただいたことで、参加者に団体の取組を知ってもらい、また、有事の際に協力して被災者支援していただけたような企業や団体、教育機関を発掘することができたことは、評価できていると考えている。 ・基金21協働事業の終了後も、「規約」を締結したことで、来年度以降もこの「行政、社協、NP0等の連携体制」を継続し、さらに有事の際の協力企業や団体を増やしてネットワークを広げていく基盤ができたことは、3年間の協働事業の成果として高く評価できていると考えている。
(4) 進捗状況	ア) この事業の進捗は何%ぐらいですか。(100%) ※1年間で目標が達成できた場合に「100%」になることを基準に判断してください。
	イ) 上記ア) のように判断した理由を記入してください。

	・県内の多様な主体とのネットワーク形成事業ということで、「企業・NP0・大学・市民のためのパートナーシップミーティング in 鎌倉」を開催し、団体に事例発表いただいたことで、参加した企業や NP0、大学等の多様な主体が団体の活動や知見を得ることができ、また「防災」における地域連携の重要性について考え、つながるきっかけとなったため。 ・また、有事の際に協力して被災者支援していただけたような企業や団体、教育機関を発掘することができたため。
	ウ) この事業の課題と対応策 ・パートナーシップミーティングを県とともに主催する中間支援組織に、「防災」「災害支援」をテーマとし、団体の協力も得て開催することに同意していただく必要がある。 ・また、「防災」「災害連携」に関心のある地域の企業や NP0、大学等へ周知し、参加者を集める必要がある。そこで、中間支援組織には丁寧に説明し、同意を得るように努めた。 ・また「防災」「災害連携」に関心の高いと思われる地域の企業や NP0、教育機関に広く周知をした。

(注) 個別事業が 2 つ以上ある場合は、上の表を複写して記入してください。

2 協働事業を継続する上での課題とその対応策

※本年度で協働事業負担金事業が終了する場合は、記入する必要はありません

3 負担金事業終了後の当該協働事業の見通し

※協働終了とする場合、団体は事業の継続の見通しについて記入してください。県協働部署にあっては、記入は不要です

4 協働事業の評価 (はい・いいえ・どちらともいえない、のいずれかに○をしてください)

(1) 協働事業の成果

①	協働することで、単独で事業を行うよりも効果やメリットがありましたか。	はい・いいえ・どちらともいえない
②	事業の受益者の満足を得ることができましたか。	はい・いいえ・どちらともいえない
③	②で「はい」を選んだ場合、受益者の満足度を調べるためにどのようなことをしたかを記入してください。 パートナーシップミーティングの終了時に、参加者に対しアンケートをとった。	
④	協働事業の成果を記入してください。 ・団体からパートナーシップミーティングに協力を得ることで、参加した企業や NP0、大学等の多様な主体が「防災」における地域連携の重要性について、平時からつながるきっかけを作ることができた。 ・団体から事例発表していただくことで、「防災」「災害支援」について、参加した企業や NP0、大学等の多様な主体が団体の取組を知り、知見を得ることができた。 ・当ミーティングの参加者は、「防災」「災害支援」に関心の高い企業や NP0、大学等であり、災害後の相互支援活動に参画意思のありそうな様々な分野の市民活動団体や事業者を発掘することに寄与した。また、ミーティング終了後のアンケートにより、当課の情報をメールで送付する了承を得た方へは、今後の団体の活動なども周知することが可能となった。	

(2) 協働事業の協議の状況

<企画段階>

①	事業計画や目標の立て方について、団体と県とは事前の調整や協議を十分行いましたか。	はい・いいえ・どちらともいえない
②	団体と県とは対等な立場で協議を行いましたか。	はい・いいえ・どちらともいえない
③	締結した協定書は事業を効果的に実施する上で適切でしたか。	はい・いいえ・どちらともいえない

<実施段階>

①	意思の疎通を円滑にし、事業の進捗状況を確認するため、団体と県とは節目ごとにメールや電話でのやりとりや定期的な協議を行いましたか。	はい・いいえ・どちらともいえない
---	--	------------------

②	協働部署（団体）の状況や担当者の置かれている立場についての理解に努めましたか。	はい・いいえ・どちらともいえない
③	必要な情報を県と共有することができましたか。	はい・いいえ・どちらともいえない
④	協議についての課題を記入してください。 2 か月に一度、定期的に連絡会議を開催しており、特段協議についての課題はない。	

(3) 協働事業の役割分担

①	県（団体）との役割分担は適切でしたか。	はい・いいえ・どちらともいえない
②	協働事業の実施にあたって、あらかじめ定められた役割を果たすことができましたか。	はい・いいえ・どちらともいえない
③	役割分担についての課題があると思われる場合は、記入してください。	

(4) 協働事業全体を通しての評価

①	全体として、団体と県とは対等な立場で協働ができましたか。	はい・いいえ・どちらともいえない
②	この事業の課題を解決する上で、協働という手法は有効だと思いましたか。	はい・いいえ・どちらともいえない
③	協働事業全体を通じて気づいた点を記入してください。 本協働事業においては、4 部署と団体、協力団体との協働事業となり、庁内 4 部署の意見をまとめるだけでも大変であったが、最終的には各分野の 4 部署と団体、協力団体とで「規約」を締結することができ、協働事業終了後も、連携体制を継続していく基盤ができた。「規約」の締結は基金 21 協働事業を実施した成果として高く評価する。	

(5) 社会的認知の獲得

①	取り組んでいる事業や成果について社会に知らせましたか。	はい・いいえ・どちらともいえない
②	①で「はい」を選んだ場合、具体的に何をいどんな反応があったか（無かったのか）を記入してください。 ・実施結果を県ホームページへ掲載した。 ・参加者アンケートでは、団体の事例紹介について、95%以上の参加者が「参考になった」「やや参考になった」との回答があった。	
③	今後に向けた課題を記入してください。 内閣府のモデル事業に応募しているが、内閣府モデル事業の終了後、運営費用についてどのように資金調達していくかが課題である。	

(6) 新たなネットワークの獲得

①	この事業を実施する上で新たなネットワークをつくる（広げる）必要性がありましたか。	はい・いいえ・どちらともいえない
②	①で「はい」を選んだ場合、ネットワークをつくる（広げる）努力しましたか。	はい・いいえ・どちらともいえない
③	②で「はい」を選んだ場合、どんな努力をしたのかを記入してください。 パートナーシップミーティングに参加していただけるよう、昨年度の参加者や防災、地域連携に関心のありそうな企業、NPO、教育機関へ開催の周知をした。	
④	②で「はい」を選んだ場合、ネットワークをつくる（広げる）ことができましたか。	はい・いいえ・どちらともいえない
⑤	④で「はい」を選んだ場合、具体的に関係（連携）ができた機関の名称を記入してください。 ミーティング参加者に今後県からの情報を送付するような緩い関係ができた程度なので、具体的な機関の名称は省略する。	

(7) 行政の施策等への影響

①	協働事業の実施により、県職員のボランティア団体等に対する認識や行政の施策等に影響を与えることができましたか。（協働部署にあっては、影響を与えられたかどうかを回答してください。）	はい・いいえ・どちらともいえない
②	①で「はい」を選んだ場合、具体的に変化や影響があったと思われることがあれば記入してください。 団体、県協働 4 部署、県社協等の協力団体で「規約」を締結し、基金事業終了後も継続して広域大規模災害に備え、平常時からの行政、社協、NPO 等の連携体制」を構築し、ネットワークを広げていく体制を整えた。	

(8) 費用対効果

①	事業の効果から見て、要したコストは適切でしたか。	はい・いいえ・どちらともいえない
②	①で「いいえ」を選んだ場合、その理由と、今後の対応策を記入してください。	